

いざ!という時のために 備えておきたい

3か条

日頃忘れがちな防災をチェック!

「備えあれば憂いなし」—— 今回の東日本大震災は、通常の「備え」をはるかに超えた大災害でした。このことからふだんの災害対策の重要性を改めて認識させられました。災害の後だからこそ気がつく日頃の備えについて、もう一度チェックしてみませんか。

企業が備えたい 防災チェック!

- ✓ 連絡網を再チェック!
- ✓ 日常の備えを再チェック!
- ✓ BCP(事業継続計画)を再チェック!



「備え」といっても、例えば「水や非常食料の備蓄」「防災訓練の実施」などは、今回肝に銘じた企業も多かったのではないかと思います。そこで、忘れがちだったり後回しになったりしそうなポイントを、3つ上げてみましょう。

第1条 連絡網を再チェック!

後で触れるBCPの一環でもあるのですが、通信連絡網の重要性を実感された方は多かったと思います。

今回の地震で、通信インフラも大きな打撃を受けました。一般の固定電話も携帯

の建物は耐震構造になっていて、揺れに抵抗するのではなく、自らも揺れることで力を逃がす方式が多いためか、建物の構造は何ともないのですが、天井パネルや蛍光灯、窓ガラス、それに棚などに被害が出たケースが多かったようです。

棚やロッカーなどは、転倒防止の固定具などがホームセンターで販売されています。少しの出費を惜しまず、ぜひ導入してみてください。

またパソコンのディスプレイやテレビなども、机や台から落ちて損傷したケースも少なくないそうです。これらも固定具も販売されています。

一度、社内で「再点検チーム」を立ち上げ、チェックしてみるといいかも知れません。できれば外部の建築士にも入ってもらって、建物そのもののチェックも行っていただいた方がいいでしょう。特に電気系統は、意外なところで漏電の危険箇所があったりしますから、健康診断だと思ってやってみてください。

第3条 BCP(事業継続計画)を再チェック!

災害やテロなど緊急事態に遭遇したことを想定して策定するBCP(事業継続計画)は、ここ数年その必要性が唱えられてきました。そして今回、まさしくそれが「生きる」状況になったわけですが——さ

電話も一日中繋がらず、社員の安否確認に手間取った企業も、多かったのではないのでしょうか。中には社員の確認はすぐに済んだけれども外出していた社長と連絡がとれず、やきもきしたところも、あったようです。

そんな中で、インターネットを使ったメールは、遅延はありましたが、どうにかやり取りをすることができました。電気が止まらなくなった場合、パソコンのメールはなかなか使えませんが、携帯電話のメールであれば、とりあえず(電池の続く間は)使うことができました。またツイッターなどの新しい情報システムも機能しており、ネットの強さを改めて見せつける結果となりました。

従来、連絡網というと電話ばかりを考えていたと思いますが、せっかくの教訓ですから、メールも組み入れてはいいかがでしょうか。社員数が多い企業であれば、自社でメールングリストや掲示板などを運用するのも、ひとつの方法です。

また、すべての連絡が(社長など)一部の人に集中する連絡網や、ツリー型(ぶら下がり型)の連絡網は、どこかで支障が起るとそれで機能しなくなってしまうます。多少手間はかかりますが、複数の経路を設定することも大切でしょう。

第2条 日常の備えを再チェック!

今回の被害では、ロッカーや本棚が倒れたケースも多かったようです。また、最近

うか?

まだ策定していなかった企業では、逆に「作っておけばよかった」と後悔されているのではないのでしょうか。

その一方で「いやあ、BCPなんかすっかり忘れてどたばたしてしまいました」と頭を掻く経営者、担当者も少なくないのではないのでしょうか。

BCPは、災害が発生した直後も重要ですが、少し落ち着いた後の事業継続の手段を確保するためにも、役立たせなくてはなりません。特に大規模な地震災害の場合、自社は被害が少なくても、取引先が大きな損害を受けていて事業を休止してしまうケースも、少なくないはずですから、BCPを事前に作成しておくことは重要です。現在策定していない企業も、これから取りかかっても決して遅くはありません。

また、今回「策定してあったのに、機能しなかった」と反省している企業は、何がまずかったのか、どうすれば機能するのかを、きちんと再チェックしてみてください。

震災後、企業の防災についての意識は確実に高まっています。けれども「熱しやすく冷めやすい」「喉元過ぎれば熱さ忘るる」傾向がある日本人、もしかするとしばらく後には気が緩んでくるかも知れません。そうならないうちに、まずはできることから手を付けてみてください。

